

在籍校名
職・氏名

久留米市立青峰小学校
教諭 樋口 幸助

研 修 報 告 書

このたび、長期派遣研修員として、下記のとおり研修をしましたので報告いたします。

記

1 研修種別

D 福岡県教育センター研修員

2 主題研修について

研究主題 思いを基に表し方を工夫し続ける児童を育てる高学年図画工作科学習指導
—「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」の位置付けを通して—

(1) 研究のねらい

ア 課題の背景

「STEAM 教育」等の新しい教育の在り方として、自分が創造したものに意味や価値を見だし、新たな探究と創造のサイクルを生み出す教科等横断的な学習が求められている。そのために、特に図画工作科の学習では、発想や構想をする活動と鑑賞する活動の往還や繰り返しのある柔軟な学習過程を工夫すること、作品などに対する思いや考えを説明したり、批評し合ったりする言語活動を適切に位置づけることが必要である。これまでの自身の実践を振り返ると、多くの児童が図画工作の学習を好んでいるが、発想や構想、表現の活動に停滞が見られ、自分が表したいものを粘り強く表現していくことにも課題が見られた。そこで、想像したことや経験から生まれた思いを基に、よりよい表し方を求めて作品をつくり続ける児童を育てる図画工作科の授業を究明したいと考え、本主題を設定した。

イ 研究の目的

第5学年図画工作科学習指導において、思いを基に表し方を工夫し続ける児童を育てるための「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」の位置付けの有効性を明らかにする。

ウ 研究の仮説

第5学年図画工作科学習において、「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」を行い、次のような手立てを講じれば、思いを基に表し方を工夫し続ける児童が育つであろう。

<手立て1> 「材料体験活動」で材料の特徴に気付かせる工夫(材料や用具の準備と教師の関わり方)

<手立て2> 「交流活動1」「交流活動2」を活性化させる工夫(交流シートの活用と展示場所の設定)

<手立て3> 造形活動における学びをつなぐ ICT の活用(製作過程のポートフォリオ化)

(2) 研究の構想

ア 主題の説明

(ア) 主題について

「思い」とは、「～な感じの○○を表したい」という表現の欲求と結び付いた表したいものを含む表現の方向性のことである。造形活動に取り組む中で、材料や他者との関わりから「もっと～な感じにしたい」など方向性が少し変わったり、新たな方向性が付け加わったりすることもある。

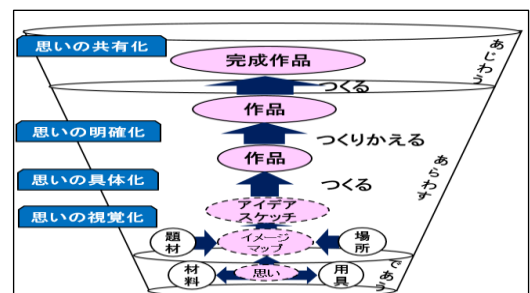


図1 思いを基に表し方を工夫し続ける過程

「思いを基に表し方を工夫し続ける」とは、前頁図1のように、材料、用具、展示場所などとの関わりを通して生まれた思いをイメージマップやアイデアスケッチに視覚化し、作品に具体化してつくり、作品に込めた思いがより表れるようにつくりかえることで思いを明確化したりすることである。そこで、本研究で目指す児童の姿を次の三つから設定した。

- 自分の感覚や行為を通して、材料の特徴に気付き、作品の形や色などの造形的な特徴を理解し、材料や用具を選んで自分なりの表し方の工夫に生かす児童 【知識及び技能】
- 作品の形や色などの造形的な特徴から、どこに、どのように表すか、どのようにつくりかえるかを自他の表し方の工夫や展示場所などとの関わりから考える児童 【思考力、判断力、表現力等】
- 自分が表したいものをつくり続けたり、他者の感想や助言を自分の表現に生かし、作品に込めた思いが表れるようにつくりかえたりしようとする児童 【学びに向かう力、人間性等】

(4) 副題について

「材料体験活動」とは、主たる材料に働きかけて遊んだり、用具を使って材料を加工することを試したりしながら材料の特徴に気付く活動である。「交流活動1」とは、造形的な特徴に着目して自他の表し方の工夫を伝え合い、今後の表現の方向性を見いだす活動である。「交流活動2」とは、展示場所と自他の作品を照らし合わせて情景や状況を調整・共有し、展示場所や他者の作品との関係から自分の作品の工夫点や修正点を見付ける活動である。

「『材料体験活動』と『交流活動1』『交流活動2』の位置付け」とは、「材料体験活動」で気付いた材料の特徴を生かしながら自分の思いを作品に表し、「交流活動1」で友人からの感想や助言を受けてつくり、「交流活動2」で展示場所に作品を置いてみて、更なる工夫点や修正点を見付けてつくりかえるなど、自らの思いや活動を問い直し、表し方を工夫し続けていく題材の学習過程のことである(図2)。

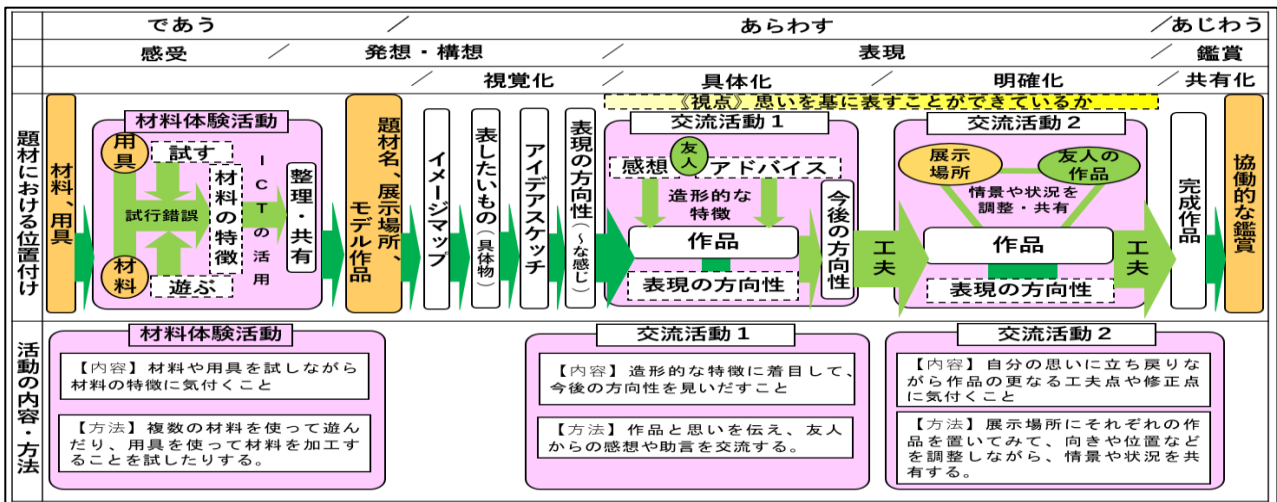


図2 「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」の題材における位置付け

イ 研究の内容

(7) 「材料体験活動」で材料の特徴に気付かせる工夫

「材料体験活動」において、材料の特徴に気付かせるために、次の二つの工夫をする。

一つは、形や色、材質、強度などの材料の特徴に気付かせるために、複数の材料や用具を準備することである。複数の材料や用具があることで、児童はそれらの材料や用具をこれまでの経験と照らし合わせたり、試したりしながら自身の活動を発展・変化させていく。そして、複数の材料や用具の中から自分がその時に使いたいものを選んだり、組み合わせたりするなど表現の効果や材料の可能性を確かめながら、材料の特徴に気付くことができるようにする。

二つは、児童の自由な活動を促すために、声掛けをしながら教師も児童と一緒に活動することである。児童が材料と向き合い、やってみたいことを思いつくままに試して、活動に取り組むことができるように教師も一緒に楽しみながら活動している姿を見せる。その際、「どんなことができるかな。」「こんなこともできるんだね。」などと声掛けを行い、児童の活動を認め、賞賛するようにする。

(イ) 「交流活動1」「交流活動2」を活性化させる工夫

「交流活動1」「交流活動2」のそれぞれに、交流活動をより活性化させるために、表2の工夫を取り入れる。

(ウ) 造形活動における学びをつなぐ ICT の活用

題材を通して、ICT を活用し製作過程を記録することで、自分の学びをつなぎ、造形活動における学びを充実させる。具体的には、授業の各段階において、イメージマップ、アイデアスケッチや製作途中の作品の写真をポートフォリオ化することで、製作過程を振り返ったり、作品の変化を再認識したり、写真を使いながら工夫点や修正点を考えたりすることができるようにする。

表2 「交流活動1」「交流活動2」を活性化させる工夫

	目的	活性化させる工夫	効果
交流活動1	造形的な特徴に着目して自他の表し方の工夫をつかむこと	・表現の方向性に対し、助言の視点を与える 交流シートの活用	交流シートを使うことで、よさとアドバイス両方の視点から意見がもらえる。その内容から、話し合うことにつながる。
交流活動2	展示場所と自他の作品を照らし合わせて、情景や状況を調整・共有すること	・情景が想像され、作品を飾りたくなる場 ・全員の作品を置くと、作品同士が近接し、状況を話し合いたくなる場	題材の主材料を使って表した場所や空間があり、その一部をつくるという意識をもたせることで、その空間での情景などを自然に思い浮かべる。作品を置く場所が、友人とエリアごとに密集するため、情景や状況を共有しなしいけなくなる。

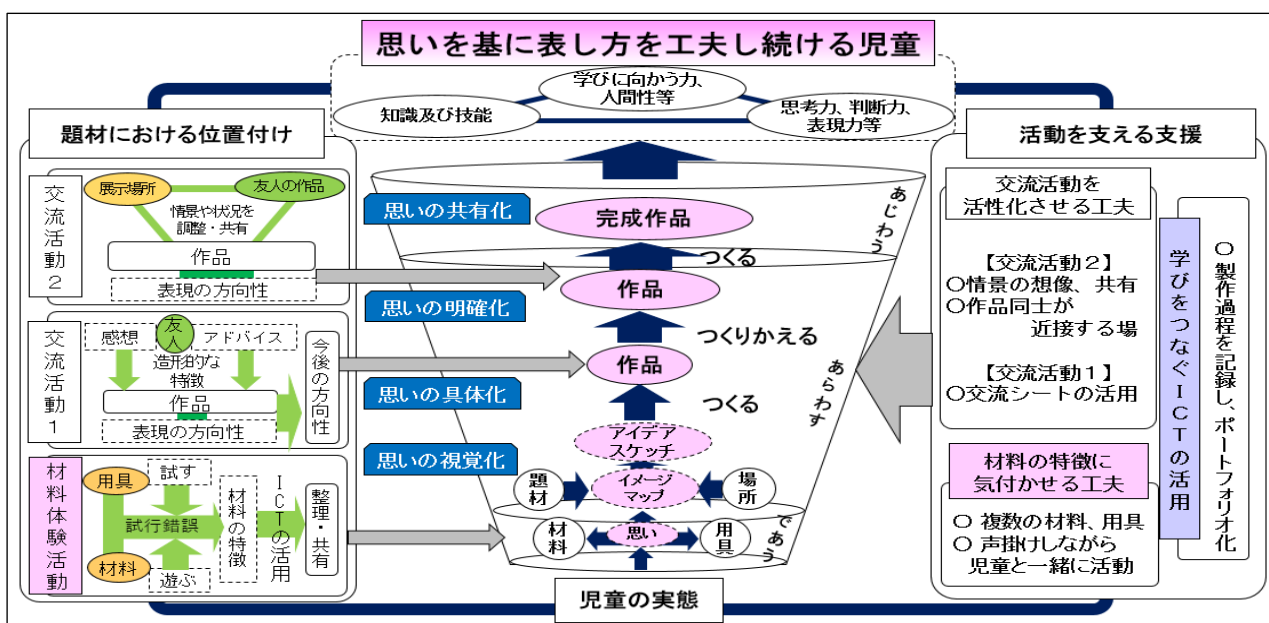


図3 研究構想図

(3) 研究の実際

ア 実証授業の学年及び題材計画(全8時間) A 市立B小学校第5学年C組16名

題材名「切って、つなげて、組み立てて! 『すてきな段ボールのまち』」

目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の特徴に気付き、形や質感などの造形的な特徴を理解するとともに、表し方を工夫して「段ボールの〇〇(ビル、タワー、お城など)」を表す。 【知識及び技能】 ○ 造形的な特徴を基にしなが、「～な感じ」が表現できるように表したいものをつくり、展示場所を活かした「段ボールの〇〇」につくりかえる。 【思考力、判断力、表現力等】 ○ 見通しをもって造形活動に取り組み、表し方を工夫しながら粘り強く表現しようとしたり、表したいことが表れるようにつくりかえたりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】 	
段階	学習活動	配時
であう	1 段ボールに触れながら遊んだり、用具を試したりする。	1
あらわす	2 アイデアスケッチに表した思いを基に自分なりの「段ボールの〇〇(建物)」をつくる。	6
	前段 アイデアスケッチを基に「～な感じの〇〇」を工夫しながらつくる。	④
	後段 「～な感じ」が伝わるように表し方を工夫しながらつくりかえる。	②
あじわう	3 「すてきな段ボールのまち」に作品を飾り、自他の作品のよさを鑑賞する。	1

イ 実証授業の実際と考察

(7) であう段階(第1時)

であう段階では、段ボールに働きかけて遊んだり、用具を使ってできることを試したりしながら、材料の特徴に気付かせることをねらいとした。そのために、形、質感、厚さが異なる段ボールを複数準備するとともに、切る、つなげるなどの想定される活動に必要な用具を準備し「材料体験活動」を設定した。



資料1 「材料体験活動」でのA児の様子

「材料体験活動」では、段ボールだけでできることを工夫して遊ぶことができるように、教師が児童と一緒に活動したり、「こんなこともできるんだね」と声掛けをしたりして、児童の自由な活動を促した。その結果、「ちぎる」「立てる」「丸める」などの活動をしたり、友人と段ボールの板でピラミッドをつくったりする児童の姿が見られた。また、用具を用いて「切る」「切り抜く」「切り込み同士をかみ合わせてつなげる」ことなどを自ら試す児童の姿が見られた。A児は、資料1のように、いろいろな厚みの段ボールの板に段ボールカッターで切り込みを入れて、同様に切り込みを入れた友人の板とつなぎ合わせたり、段ボールの表面をはいで片面段ボールをつくったりして遊ぶ姿が見られた。これらの

姿は、材料でできることをいろいろ試しながら発想や構想を繰り返し、材料の特徴を感覚や行為を通して体で感じている姿であると捉える。その後、全員で「材料体験活動」を振り返り、ICTを活用して互いに気付いた段ボールの特徴をキーワードで視覚化し、整理・共有した。この時A児は、「気付いたことは、段ボールが切りにくくてかたいことと、水をかけると柔らかくなるけど時間がたったらかたくなること」と書いていた。そして、A児は、自分の気づきだけでなく、共有した様々な特徴に気付くことができた。そして、資料2のように、展示場所を提示し、全員で情景を想像しながら話し合い、「みんなで段ボールのまちをつくらう」という題材のめあてをつくることができた。

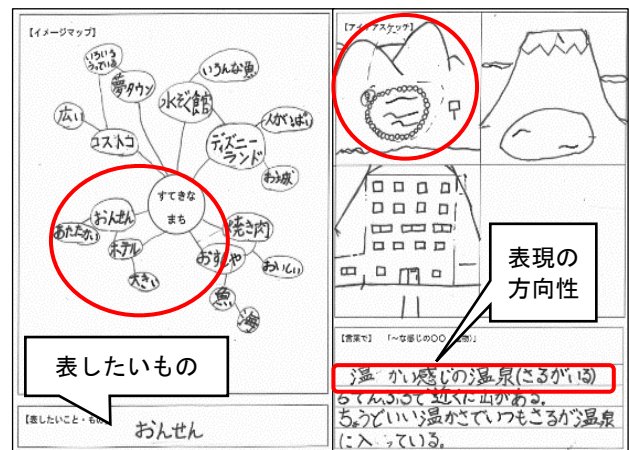


資料2 展示場所とモデル作品に出会う様子

以上のことから、複数の材料や用具を用いて遊んだり、試したりする「材料体験活動」は、材料の特徴に気付かせる上で有効であったと判断する。

(イ) あらわす段階の前段(第2～5時)

あらわす段階の冒頭で、表したい建物と表現の方向性をイメージマップとアイデアスケッチに表して思いを視覚化させた。多くの児童が複数のアイデアスケッチを描くことができた。A児は、資料3のようにイメージマップにつくりたい建物と、その様子を書いた。そして、複数の建物の中から、表したいものとして「温泉」を選んで、3種類のアイデアスケッチを描き、「温かい感じの温泉」と表現の方向性についての説明を書き加えた。



資料3 A児のイメージマップとアイデアスケッチ

あらわす段階の前段では、アイデアスケッチを基に自分が表したい「～な感じの○○(建物)」という思いを具体化しながら表し方を工夫して作品をつくることをねらいとした。そのために、3～4人のグループで、友人からの感想や助言をもらい、今後の表現の方向性を見いだす「交流活動1」を設定した。

A児は、資料4のように、厚くて強い段ボールを作品の土台とし、薄くて加工しやすい段ボールで山や橋、洞窟を作った。また、片面段ボールを筒状に巻き、2～3cmの長さに切って温泉(露天風呂)の囲いとなる岩を表現した。これらは、であう段階で行った「材料体験活動」によ



資料4 「交流活動1」前のA児の作品

る段ボールの特徴を自分なりに生かして表し方を工夫した姿であると捉える。

「交流活動1」では、まず自分の作品に込めた思いを交流シートに書いた。次に、友人の作品と交流シートを見ながら、「いいね！（作品と思いがつながっている表し方の工夫）」と「アドバイス（もっと思いに近づけるにはどうしたらいいか）」を付箋に書いた。そして、資料5のように、具体的にどの部分を、どのようにしたらいいと思うか交流した。

A児は、この「交流活動1」の後、資料6のように、初めに作っていたハート形の温泉の横に、少し小さめの円形の温泉をつくったり、温泉の形に合わせて片面段ボールで温泉のお湯を表現したりした。これは、友人からの感想やアドバイスを受けて、今後の表現の方向性を見いだすとともに、「材料体験活動」での気付きを生かして表し方を工夫した姿であると捉える。

以上のことから、友人から感想や助言をもらい、今後の表現の方向性を見いだす「交流活動1」は、思いを具体化しながら表し方を工夫させる上で有効であったと判断する。

(ウ) あらわす段階の後段(第6・7時)

あらわす段階の後段では、作品に込めた思いをより明確化しながら、思いが表れるように作りかえることをねらいとした。そのために、展示場所における情景や自分と友人の作品の状況を調整・共有し、展示場所や他者の作品との関係から自分の作品の工夫点や修正点を見付ける「交流活動2」を設定した。

「交流活動2」では、自分の作品に合うと思う場所を探して、児童が選んだ場所ごとに建物の配置や向きを考えた。作品を置いた場所が近いグループで話し合い、作品の位置や向きを操作する児童の姿が見られた。資料7のように、A児のグループでは、作品の向きや展示場所から想像されるまちの様子を話し合った。A児は、展示場所の一番高い場所(山)に作品を置いたことで、展示場所との関係から自分の作品の工夫点を見付け、「山奥だから、猿がいっぱいそう」と呟き、加工しやすい薄い材料を使って、たくさんの猿の親子を作品に付け加えた。これは、展示場所における情景や自分と友人の作品の状況を調整・共有した姿であると考えられる。

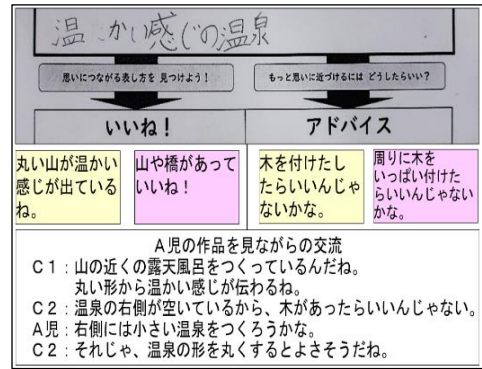
以上のことから、展示場所における情景や自分と友人の作品の状況を調整・共有し、展示場所や他者の作品との関係から自分の作品の工夫点や修正点を見付ける「交流活動2」は、思いを明確化して、自分なりの表し方を工夫させる上で有効であったと判断する。

(エ) あじわう段階(第8時)

あじわう段階では、完成作品を「すてきな段ボールのまち」に展示し、思いを共有化しながら、作品のよさを味わうことをねらいとした。そのために、作品とポートフォリオ化していた写真を鑑賞する場を設定した。

A児は、作品紹介カードに「山と温泉を丸くした」と書いた。これは、加工しやすい材料を選んだり、切り方を工夫したりしたことを振り返った記述であると捉える。また、資料8のように、製作過程の写真を友人に見せ、友人は「ハートと丸い形の温泉が二つあって、かわいいね」と感想を書いた。これらは、自他の作品の思いを共有したり、特徴やよさを味わったりすることができた姿であると捉える。

以上のことから、作品の製作過程の写真を見合いながら鑑賞する場を設定したことは、思いを共有化しながら、自他の作品のよさを味わわせる上で有効であったと判断する。



資料5 A児の交流シートと交流の様子



資料6 「交流活動1」の後のA児の作品



資料7 「交流活動2」でのA児のグループの様子

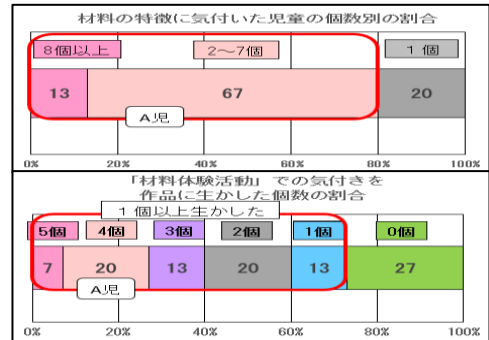


資料8 製作過程を友人と振り返るA児の様子

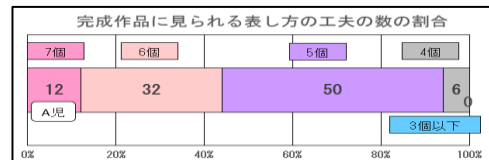
(4) 全体考察

ア 「知識及び技能」について

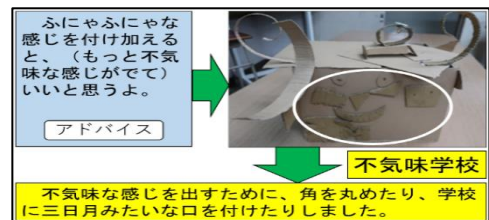
資料9 上段は、「材料体験活動」での材料の特徴に気付いた児童の個数別の割合である。80%の児童が複数の材料の特徴に気付くことができた。また、資料9 下段は、「材料体験活動」での気づきを作品に生かすことができた児童の個数別の割合である。自分が気付いたことを1つ以上作品に生かした児童の合計は73%であったが、27%の児童は気づきを自分の作品に生かしていなかった。このことから、題材を通して柔軟に「材料体験活動」を設定するなどの意識をつなげる手立てが必要であったと考える。資料10は、完成作品に見られる表し方の工夫である。全ての児童が複数の表し方を組み合わせて、自分なりの表し方を工夫していることが分かり、作品に表しながら技能を働かせたと言える。これらの結果から、「知識及び技能」が発揮されたと判断する。



資料9 「材料体験活動」での気づき



資料10 完成作品に見られる表し方の工夫



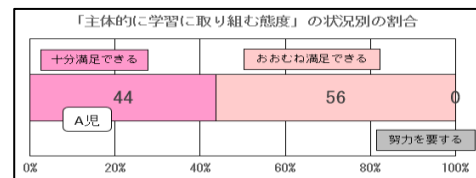
資料11 「不気味な感じ」を表した作品

イ 「思考力、判断力、表現力等」について

「交流活動1」でのアドバイスを生かしてつくった児童が81%、「交流活動2」後につくりかえた児童が94%であり、多くの児童が「交流活動2」の後、表現の方向性がより伝わるように表し方を工夫することができた。資料11は、「不気味な感じ」を表した児童の作品である。友人からのアドバイスを生かして、不定形の窓を付け加えた。これは、「交流活動1」「交流活動2」の後、表現の方向性がより伝わるように表し方を工夫した姿と捉える。これらの結果から、「思考力、判断力、表現力等」が発揮されたと判断する。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」について

資料12は、実証授業の題材における「主体的に学習に取り組む態度」の状況別の割合である。「A:十分満足できる」児童の割合は44%であった。これらは、「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」を位置付けたことにより、自分の思いに合うように粘り強く取り組んだり、友人の考えを取り入れ付加・修正したりすることができたからであると考えられる。よって、題材を通して、「学びに向かう力、人間性等」が発揮されたと判断する。



資料12 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(5) 研究の成果と今後の課題

ア 研究の成果

- 「材料体験活動」は、材料や用具を用いて遊んだり、試したりすることを繰り返しながら、材料の特徴に気付くことができ、作品の工夫に生かしていく上での有効性が明らかになった。
- 「交流活動1」「交流活動2」は、思いがより具体化されるように表し方を工夫し続け、表現の方向性を問い直し、思いを明確化していく上で有効であることが分かった。
- 「材料体験活動」と「交流活動1」「交流活動2」の題材における位置付けは、材料の特徴を生かし、思いを表しながら粘り強く作り、つくりかえていく上で有効であることが分かった。

イ 今後の課題

- 学級全体だけでなく、個別の状況に応じて題材途中でも再度「材料体験活動」や「交流活動1」ができるよう柔軟に設定することで、より個人差に対応した支援の充実につながると考える。

<参考文献>

- ・岡田京子(2016) 『成長する授業-子供と教師をつなぐ図画工作』 東洋館出版
- ・笠 雷太(2020) 『子供が世界に触れる瞬間 子どもが自分らしく創造する図画工作科の学びの豊かさ』 東洋館出版

【添付資料】

○ 抽出児の作品の変容と題材の活動の全体像

	抽出児の表現の方向性と作品の変容	題材の活動の全体像
であう	<p>○ 「材料体験活動」</p>  <p>○ 展示場所、モデル作品との出会い</p>  <p>みんな でまち をつく ろう！</p> <p>わー、すごい！早くつくりたい！</p>	<p>○ ICT を活用して材料の特徴を整理・共有</p> <p>「硬いから、切りにくい」のように ICT を活用して材料の特徴を視覚化して整理し、単語と単語を結び付けて共有しながら、段ボールの特徴に気付いた児童の姿が見られた。「厚い段ボールは硬いから切りにくかった。」「手で破いたり、はいだりすることができた。」などに気付くことができた。</p>  
あらわす・前段	<p>表したい建物：温泉</p> <p>↓</p> <p>温かい感じの温泉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚くて強い段ボールを作品の土台にした。 ・薄くて加工しやすい段ボールで山や橋、洞窟を作った。 ・片面段ボールを筒状に巻き、2～3cmの長さで切って温泉（露天風呂）の囲いとなる岩を表現した。 <p>○ 「交流活動1」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さめの露天風呂を付け加えた。 	<p>○ イメージマップとアイデアスケッチ</p>  <p>参考になる建物を見つけた</p> <p>○ アイデアスケッチを基に段ボールで表す</p> <p>つくりながら、アイデアスケッチを確認する姿や活動に没頭する姿が見られた。</p> <p>○ 「交流活動1」の実際</p>  <p>段ボールを操作して助言を確認するなど今後の方向性を考える姿が見られた。</p> <p>「いいね！」「アドバイス」を付箋に書いた</p> <p>交流の様子</p>
・後段	<p>○ 「交流活動2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山奥という場から発想を広げ、「たくさんの猿」を付け加えた。 <p>温かい感じの「さるがたくさんのいる温泉」</p>	<p>○ 「交流活動2」の実際</p>  <p>「まちの人から見えるように作品の向きを変えよう。」「学校の前にグラウンドができたね。」などと場の情景や状況を共有する姿が見られた。</p>
あじわう	<p>○ 完成作品と友人の感想</p>  <p>完成作品</p> <p>友人の感想</p> <p>温かそうで、大人用と子供用があってとてもべんりですね。かあちゃんもさるがたくさんいて、いっしょに遊べるのがいいね。ノートと友達の温泉が二つあってかわいいね。</p>	<p>○ ICT で制作過程を振り返りながら鑑賞</p>  <p>「すてきな段ボールのまち」完成</p>

○ 学級全員の表現物

完成作品	題名と作品の紹介	完成作品	題名と作品の紹介
	<p>どうどうとしたホテル 堂々とした感じになるために、大きくしました。上に旗を付けました。周りに飾りを付けました。</p>		<p>かわいいコンビニ かわいい感じになるように、うさぎやハートをつけて小さくしました。中から外が見えるようにまどをつけました。</p>
	<p>かっこいい病院 かっこいい感じになるように大きくしました。大きくて頑丈な感じにしました。</p>		<p>さるがたくさんいる温泉 温かくなるように山を丸くして、さるが入る温泉を丸くしました。山を渡れる橋もあります。</p>
	<p>にぎやかなカラオケ 目立つように大きくなるようにつくりました。ポイントは看板が動くところです。</p>		<p>高さよ 大きさよ 学校 自分のかっこいいは高さだと思ったので、高くつくりました。ぼくは、三角をいっぱい使いました。</p>
	<p>楽しい博物館 楽しそうな感じになるように外側に剣を付けました。剣を戦っているように（交差する形に）しました。</p>		<p>にぎやかなショッピングモール たくさん違う形の窓を付けました。正面には吹き出しの案内板を付けて、ドアも開けることができるようにしました。</p>
	<p>立派なコンビニ 王冠などをつけて2階にしました。登れるように、はしごをつけて、出るときは滑って出るようにつくりました。</p>		<p>にぎやかな感じの100円ショップ 大きくて四角い形にしました。上に三角形のようなところをつくりました。</p>
	<p>あったかい おんせんホテル ダンボールのもようをくふうしました。まどをたくさんつけました。たてものの中をくふうしました。</p>		<p>びゅーとさわやかなホテル いっぱい風が通るように窓を付けました。海の近くに置いてみてよかったので、海の近くにあった方がいいと思いました。</p>
	<p>ふるくて すてきな感じの だがしや 店の横に電気をつけました。あと、店の横に木と自動販売機を付けました。</p>		<p>ぼんマーケット 人をたくさん置きました。横に撮影スポットを置きました。あと、もう一つの横に看板を置きました。</p>
	<p>強いお城 形ががっちりしました。高くしました。大きさは、大きいものと小さいのにつくってお城に見えるようにしました。</p>		<p>不気味学校 不気味な感じを出すために、角を丸めたり、学校に三日月みたいな口を付けたりしました。</p>

